

道徳科（人権）学習指導案

- 1 主題 共に生きる
- 2 主題設定の理由（省略）
- 3 ねらい

自分たちの行動や考えを互いに見直すことで、よりよい自己や集団をめざそうとする態度を育てる。

4 指導計画

(1) これまでの学習

道徳科「自分以下を求める心」（わたしの願い）	1時間
道徳科「裏庭のできごと」（あかつき）	1時間
道徳科「二枚の写真」（あかつき）	1時間
総合的な学習の時間「ユニバーサルデザイン」	5時間
総合的な学習の時間「福祉体験学習」	2時間
学級活動「リフレーミング」	1時間
学級活動「よいとこさがし川柳」	1時間
学級活動「ほめ言葉シャワー」「内観日記」「マイセルフ（自尊感情を高めるためのポートフォリオ）」「なりたい自分」「BDS（Birthday Share）」「Show認シート」	常時

(2) 現在の学習

道徳科「メガネと補聴器」 1時間（本時）

(3) これからの学習

道徳科「ひび割れ壺」 1時間

5 本時の学習

(1) 目標

カスミちゃんと母親の会話から、人のもつ偏見や差別意識が障がいであることに気付かせ、互いの人権を尊重しようとする意欲を高める。

ねらいとする道徳的価値 B-6 思いやり、感謝

(2) 普遍的な学習のテーマ・・・ 個人の尊重 共に生きる

個別人権課題名・・・ 障がい者

(3) 展開

学習活動	指導上の留意点
1 アンケート結果を確認する。	○アンケート結果を示し、実際に偏見や差別が存在していることを認識させ、自分事として捉えさせる。①
2 カスミちゃんが「髪を短く切って」と母親に言ったことについて考える。	○周囲の理解が安心感を与えることに気付かせる。②
障がいとはどのようなことだろうか	
3 母親自身の障がいに対する見方の変容について考える。	○母親の気持ちの変容から、障がいとはどのようなことであるのかを考えさせる。①②

(4) 評価

・ 偏見や差別が障がいとなっていることを理解し、共に生きようとする意欲を高めることができたか。

【価値的・態度的側面】①

・ 仲間の意見をしっかりと受け止め、自分の意見を伝えることができたか。

【技能的側面】②